

平成29年度 自己評価表（中間評価）				鳥取県立鳥取工業高等学校		H29.10.27									
中長期目標 （学校ビジョン）		技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたくまい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。				今年度の重点目標		1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現							
評価項目		評価の具体性		現状		目標（年度末の目指す姿）		目標達成のための方策		経過・達成状況		評価結果 10 月（中間評価）		改善方策	
1	学力の向上	①	授業改革と学力の向上	【授業改革】 ・各科・教科によるALを用いた公開授業の実施 ・学校評価アンケートによる生徒の授業満足度は概ね良好（75%） 【学力の育成】 ・基礎力診断テストについては基礎力不足層（Dゾーン）が全学年ともに約45%を占有、基礎学力の定着に課題 ・全国工業高校校長会主催標準テストについては成績向上に課題 【学習環境の整備】 ・教室整備・教室美化は概ね良好。 ・授業前の着席と挨拶は概ね良好。		【授業改革】 ・ALを実践する職員数の増加 ・進路を切り開く主体的な学びの実践 ・他校で実施した分かりやすい授業づくり ・80%以上の生徒が授業に満足と回答 ・ICT環境の整備 【学力の育成】 ・進研模試において、1・2年生3教科SS48以上、3年生5教科SS46以上の生徒が各学年で10名以上（理数工学科） ・基礎力診断テストにおける、基礎力不足層（Dゾーン）の減少（全体の40%） ・専門教育に対応する数学力への定着 【学習環境の整備】 ・「5S・あさひ」を励行し、落ち着いた学習環境づくりを率先		【授業改革】 ・ALの理解を深め、実践につながる研修会を年2回実施 ・他校で開催される学習理論研修への参加を勧奨 ・図書館のWi-Fi環境の整備、タブレット端末の活用と研修会の実施 ・授業評価アンケート結果に基づく授業改善の実施 【学力の育成】 ・進路補習の計画の実施 ・基礎力養成に向けた放課後補習及び個別指導を、各科・各教科で実施 【学習環境の整備】 ・教室美化、授業準備と挨拶の徹底		【授業改革】 ①タブレット端末活用研修会の実施（7月） ②一人一公開授業の実施率が低減 ③他校でのALの公開授業の案内を提示・連絡によって教職員に勧奨 ④授業アンケートを各科で集約、それに基づいた改善方策を協議 【学力の育成】 ①基礎力診断テスト（7月実施）のDゾーン（基礎力不足層）の生徒の割合 1年生：52% 2年生：58% 3年生54% ②放課後の進路補習を計画に基づいて実施 ③各科で放課後補習や個別指導を適宜実施、基礎力定着の推進（1年生は夏休みに1週間の勉強会を実施等） 【学習環境の整備】 5Sあさひの励行により、教室はきれいで学習環境は良い状態を維持		C		【授業改革】 ①学力向上研修会の実施（10月）及び全クラスで公開授業 ②計画的な一人一公開授業の実施 ③引き続き、他校での公開授業の案内・連絡を行い、教職員に勧奨 ④授業アンケートに基づく改善方策を継続して実施 【学力の育成】 ①進学のための補習の充実 ②基礎学力の向上・定着のための補習の充実 【学習環境の整備】 引き続き、5Sあさひの徹底、教室整備と授業規律の向上	
				②	主体的な学習態度と実践力の育成	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・自宅学習時間を含めた全学習時間の増加が課題（自宅学習時間：理数工学科141分、工業学科89分） ・教科書やノートなど、教材の授業前準備に課題 ・課題提出等の期限厳守に課題 ・生徒の進路目標の早期設定に課題		【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・自宅学習時間の増加による主体的な学習態度の育成（自宅学習時間：理数工学科150分、工業学科90分） ・具体的進路目標の設定による進路意識の向上 ・進路を意識した座学と実習の効果的な授業展開		【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ①自宅学習調査：理数工学科141分、工業学科105分 ②自宅学習調査を用いた家庭での情報端末使用度を把握 ③各科で課題を適宜提示、学習意欲を喚起 ④各科・各教科による資格・検定を受験の奨励 ⑤年度当初及び夏休み明けに担任による面接を実施し、生徒の現状や進路希望を把握		C		【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ①自宅学習調査の結果に基づいた各生徒への意欲喚起 ②継続して各科で適量の課題の適宜提示 ③引き続き、各科・各教科による資格・検定を受験の奨励、受験者に補習の実施 ④面接の推進と継続による生徒の学校生活と学習状況の把握	
2	豊かな人間性の育成	①	互いを尊重する態度と社会性の涵養	【人権教育・性教育】 ・WYSH教育公開LHRを1年生で実施 ・性教育LHRを全学年で実施、他者の人権を尊重する態度の育成に課題 ・特別支援を必要とする生徒の増加、支援方法に課題 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・職員研修で全職員に周知、クラス目標を設定 ・クラスづくり・LHR・面談等に結果を活用するも、生徒自身の自己理解に課題 ・いじめ問題に早期に対応、各教科でも人権教育を推進 ・生徒が相談しやすい体制を整備しているが、悩みを抱えている生徒は少なくない理解 【指導力向上の職員研修】 ・6割弱の職員が人権教育に関する校外研修「一人一研修」に取り組んだが、LHR等への研修成果の還元課題 ・情報提供は速やかに実施		【人権教育・性教育】 ・人権意識が高揚し、他者の人権や存在を尊重できる生徒の増加 ・生徒の実態に合った支援方法の確立 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・自己理解が出来て、集団規律が順守できる生徒の増加 ・いじめが無く、学校生活を安心して送れる生徒の増加 ・悩みが相談しやすい雰囲気の確立と、勉強が楽しいと思える生徒の増加 【指導力向上の職員研修】 ・一人一研修の参加率を9割以上 ・研修成果を教科やLHR等に還元		【人権教育・性教育】 ・人権教育LHR・性教育LHRの充実 ・WYSH教育LHRを1年生に実施 ・特別支援教育支援員との連携 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・ハイパー・QUを分析し、生徒理解とクラス運営に活用 ・いじめアンケート等を通じて、生徒の抱える悩み等を把握する等、関係分掌と情報を共有 ・教職員や外部関係機関との連携を強化、充実 【指導力向上の職員研修】 ・研修会や講演会の情報をこまめに情報発信し研修会への参加を促進し、参加資料を共有化 ・人権教育LHRの指導案の充実		【人権教育・性教育】 ①人権教育LHRの事前研修・事後研修の実施が不十分 ②WYSH教育研修会に参加 ③特別支援教育支援員と連携し、支援を要する生徒への面談を実施し、実態に合った支援を実施 ④校内人権教育研修会（職員向け）を実施 ⑤人権問題講演会を実施 ⑥人権教育や特別支援の視点に立ち、教室環境の整備を職員全体で実施 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ①hyper-QUアンケートと、その活用に関する職員研修会を実施 ②hyper-QUの活用の促進 ③第3回いじめ等に関するアンケートの実施 ④特別支援職員研修会の実施 ⑤支援を要する生徒への面談を実施し、実態に合った支援を継続実施 ⑥特別支援計画書の作成		C		【人権教育・性教育】 ①人権教育LHRに向けての事前研修・事後研修の充実 ②WYSH教育LHRの実施 ③公開人権教育LHRの実施 ④性教育LHRの実施 ⑤人権教育や特別支援の視点に立ち、教室環境の整備を職員全体で継続実施 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ①第2回hyper-QUアンケートと、その活用に関する職員研修会の実施 ②hyper-QUの活用の促進 ③第3回いじめ等に関するアンケートの実施 ④特別支援職員研修会の実施 ⑤支援を要する生徒への面談を実施し、実態に合った支援を継続実施 ⑥特別支援計画書の周知 【指導力向上の職員研修】 校外の人権教育関係の研修への参加呼びかけ（スケジューラー、個人案内等）	
				②	健全な心身と社会貢献精神の育成	【基本的生活習慣の確立】 ・「5S」、「あさひ」の考えは生徒・職員に浸透したが、生徒の主体的な取り組みに課題 ・挨拶は改善傾向にあるが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ・学校は落ちてきているものの、ルール・マナーを守る規範意識の更なる向上に課題 ・頭髪検査で各回不合格となる生徒が全校で平均25.4名 ・正しい制服の着こなしが不徹底 【ボランティア活動】 ・活動が活発化しており、その流れの継承が必須 （平成28年度実績：とっとりサイエンスワールドボランティア52名、テクノボランティア26名、若桜鉄道SL整備ボランティア9名、蔵血街頭キャンペーン7名、ボランティア体験事業6名等） 【部活動、生徒会活動】 ・生徒会役員は各種活動に参加しており、その活動を各クラスに拡大することに課題 （平成28年度実績：高校生マナーアップさわやか運動、等） ・平成28年度部活動実績：中国大会出場者数132人（平成27年度より16人増加） 【環境改善】 ・TEAS活動の目標はクリア、更に現状に合った目標を設定し、活動を継続 【安全教育】 ・昨年度、登下校時の自転車による事故が5件あり、交通ルール・マナーの遵守に課題 ・SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等の取り扱いに課題 ・携帯電話とスマートフォンの「校地内での使用禁止」は概ね定着		【基本的生活習慣の確立】 ・「5S」、「あさひ」に主体的に取り組める生徒の増加 ・いっでもどこでも誰にでも自分から挨拶できる生徒が8割 ・規範意識や社会で通用する行動や考え方を身に付けた生徒の増加 ・頭髪検査の実施と事後指導の徹底 ・問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 【ボランティア活動】 ・ボランティア活動の参加者、昨年は10%増加 【部活動、生徒会活動】 ・各クラス役員の活動と生徒会活動の活発化 ・部活動における外部指導者の活用 【環境改善】 ・廃棄物は2014年度比10%減、電力消費は2010年度比13%減 【安全教育】 ・交通安全やマナー等社会生活に必要な正しい知識の習得 ・登下校時の無事故 ・規範意識の向上とルール・マナーの実践力の向上		【基本的生活習慣の確立】 ①「5S・あさひ」の考えを継続し、教室環境の整備 ②生徒・職員によるあいさつ運動の推進により、自ら挨拶する生徒が増加 ③日常的頭髪・服装指導の実施により、不備の生徒は減少 ④頭髪検査の実施と事後指導の徹底が学年によりばらつきあり ⑤問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施により、問題行動の減少 ⑥無許可自転車、無鑑別自転車等の見回りにより減少、自転車駐輪マナーも向上 【ボランティア活動】 テクノボランティア7人、サイエンスワールドボランティア50人、八頭町ものづくり教室5人「ダメ、ゼッタイ」街頭キャンペーン2人、鳥取砂丘砂蔵8人（8/23現在） 【部活動、生徒会活動】 ①前期生徒会選挙を行い生徒会役員の定数充足 ②球技大会、文化祭など各行事において、役割分担を決めて助け合いながら生徒主体で活動 ③生徒会執行部主体で、あいさつ運動（月2回） ④生徒の部活動加入率81.7%		C		【基本的生活習慣の確立】 ①「5S・あさひ」の考えを継続し、教室環境の整備 ②自ら挨拶できる生徒が8割の達成に向けて更なる挨拶の徹底 ③頭髪・服装指導の一元化 ④生徒指導方針の徹底 【ボランティア活動】 今後も続けてボランティア活動の場を広報 【部活動、生徒会活動】 生徒会活動のさらなる活性化の推進 計画的な執行部会の開催 【環境改善】 ①達成状況を生徒・職員に周知し廃棄物・電力使用量削減の実現 ②生徒が自主的に行事の準備を進められるよう適宜打ち合わせの開催 【安全教育】 ①全職員による朝の交通指導の継続 ②各種安全教室のより効果的な実施にむけての検討	
3	キャリア教育の充実と進路実現	①	専門的な知識・技術の習得	【人材育成】 ・鳥工版デュアルシステムを3企業で実施 ・企業見学会を工業関連企業21社・学校関係2校・公共施設4箇所で開催 ・企業見学会については全体の事前説明会、科別説明会を実施し、ルール・マナーの指導の徹底 ・実習後の測定機器、実習室等の整理・整頓・清掃は各科とも定着 ・資格試験対策にも映像教材を活用、電子組立は前期合格率70% ・中国地区高校生溶接技術競技会へ出場 ・中国地区高校生溶接技術競技会へ出場 ・高校生ものづくりコンテスト県予選を通過、3部門で来年度の中国大会への出場権を獲得 電子回路組立部門では中国地区大会を制し全国大会へ出場及び、県大会連覇、今年度の中国大会、若年者ものづくり大会の出場権を獲得 ・資格・検定ガイドブックを4月中旬に配布 ・多くの科において、早朝・放課後に資格補習を実施し、一人一資格取得は概ね達成 ・測量上補合格者7名は過去最高 【「工業技術基礎（共通実習）の充実」】 ・レポート内容への赤ペン指導やコメント記入などの添削が不十分 ・提出期限の前日確認指示はできていないが、未提出者への提出指導の充実		【人材育成】 ・生徒の勤労観、職業観の育成 ・「5S」の定着 ・生徒の専門的な知識や技術の向上 ・卒業までに一人一資格以上を取得 【「工業技術基礎（共通実習）の充実」】 ・レポートの内容と書き方の向上 ・レポートなど提出期限の遵守		【人材育成】 ・キャリア教育充実のため、鳥工版デュアルシステム、企業見学会やインターンシップの内容の精選・充実 ・資格取得や技能検定も概ね良好 ・5Sや環境研究を中心とした5Sの指導 ・高校生ものづくりコンテストへの参加の奨励と指導 ・資格・検定についての意識を高めるためのガイドブックの配布 ・全生徒の一人一資格の達成に向けた資格取得のための補習の実施 【「工業技術基礎（共通実習）の充実」】 ・レポート内容への赤ペン指導やコメント記入による指導の実施 ・提出期限について前日に確認の指示		【人材育成】 ①鳥工版デュアルシステムは7名、企業見学会は工業学科2年生全員が予定どおり体験 ②資格取得や技能検定も概ね良好 ③5Sや環境研究を通じて補習、各種大会への積極的参加の奨励 ④機械科では高校生ものづくりコンテスト（旋盤作業部門）中国地区大会出場 中国地区高校生溶接技術競技会出場 ⑤制覇・情報科では3級技能検定電子機器組立てに前期14名中10名合格で71%の合格率 高校生ものづくりコンテスト・レゴマインドストームの大会出場 ものづくりコンテストでは中国地区大会準優勝 若年者ものづくり競技大会に出場し、職業能力開発総合大学校長特別賞を受賞 ⑥電気科では放課後や長期休業中に資格取得・基礎学力向上補習の実施、資格・検定を積極的奨励 高校生ものづくりコンテスト（電気工部門）中国地区大会出場 ⑦建設工学科では測量士補に3名が合格、一方高校生ものづくりコンテスト（測量部門）では、中国大会へ出場		C		【人材育成】 ①資格・検定取得が就職・進学に大きなプラスになることを認識させ、資格・検定受験の促進 ②技術検定、高校生ものづくりコンテスト大会への参加の啓蒙指導の継続 ③後期技能検定受験者を募り、合格へと指導。各種資格・検定を科職員でバックアップしながら補習等の指導の実施 【「工業技術基礎（共通実習）の充実」】 レポート内容への赤ペン指導やコメント記入などの添削を実施 ②提出期限の前日確認指示はできていないが、未提出者への提出指導を充実	
				②	勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底	【職業意識の育成】 ・インターンシップ、企業見学会、応募前見学会の実施 ・社会人講師を招いた授業の実施 ・進路LHRの実施 ・外部講師を招いた就職ガイダンス等の進路行事を実施 【進路指導の徹底】 ・進路希望調査を1、2年生は3回、3年生は2回実施し、結果活用 ・理数工学科において、高大交流事業・大学訪問を実施 ・進路補習、個別指導、作文指導、サマーサイエンスセミナーを実施し、学力向上に努力 ・2年生に面接ガイダンス、希望者に企業見学を実施 ・個別進路面談を2年生の3学期から開始 ・10人面接の実施時期を早め、各科の面接指導、担任面談がより充実 ・理数工学科3年生の進路検討会を7月・11月・1月に実施 ・国公立大学への進学は現役4名、浪人4名の計8名 ・就職の一回目選考試験合格率は92%（平成27年度82.2%）で、前年度以上の結果		【職業意識の育成】 ・地域や企業と連携した活動及び校内での進路行事等を通じ、生徒の職業観、勤労意識の育成 【進路指導の徹底】 ・キャリア教育の視点に立ち、進路目標を早い段階で定め、目標に向けた日々の取組による生徒の学力及びコミュニケーション能力の向上 ・進路は10名以上が国公立大学に合格 ・就職の一回目の選考試験合格率90%以上		【職業意識の育成】 ・インターンシップ実施において、学科の専門性と一致した企業の確保と、効果的な事前指導と事後指導の実施 ・企業見学会等で訪問企業が重複しないような調整と、進路決定までにより多くの企業を知る機会を確保 ・進路希望者対象の企業見学会と、進路後を見据えた進路決定の支援 ・社会人となることへの心構えを意識した外部就職ガイダンス等、各種進路行事への参加 【進路指導の徹底】 ①3年就職希望者への全職員による10人面接の早期実施 ・進路希望調査の定期的な実施と、保護者とともに生徒の進路の検討、再確認 ・改訂した「進路の手引き」の活用による、進路LHRの充実 ・校内進路HPの構成の見直しと、進路選択への有効な情報の提供 ・具体的な将来像を提示したため、校内での企業・学校説明会の実施 ・ポートフォリオの活用と、土・日の取組と将来の目標との定期的な振り返り、自己実現への意欲の喚起 ・理数工学科では放課後・土曜日の進路補習を実施 ・個別進路面談を2年生の3学期から開始、3年生4月時点で進路意識高揚		B		【職業意識の育成】 ①インターンシップ、企業見学会、応募前職場見学、社会人講師による授業等を実施 ②インターンシップ、企業見学会では事前に研修を行ってから実施 ③アルバイト就業事業に8名が参加 ④資格取得を奨励 【進路指導の徹底】 ①面接週間を設定して担任団・科職員による面談を実施 ②進路希望調査を行い、懇談会で保護者とともに生徒の進路を検討、再確認 ③「進路の手引き」を各学年ごとに刷新し、進路LHRの展開に寄与 ④基体協定に企業・学校説明会を実施し、企業等12社・学校2校来校し、生徒が直接企業や学校と接する機会を設定 ⑤キャリア教育の全体計画を踏まえ、個々の事業でつながりのある進路指導を実施 ⑥進路行事等の資料をポートフォリオに綴じ、進路を考える上での資料を作成 ⑦理数工学科においては「理数工学Ⅰ」「理数工学探究」への取り組み及び高大交流事業・大学訪問を実施 ⑧進路補習を計画に基づいて実施 ⑨外部模試の結果を担任、教科へフィードバック ⑩10人面接を実施し、8月の推薦委員会までに就職希望者全員が8人終えて出願 ⑪就職選考試験の1回目合格率は10月時点で目標の90%を達成	
4	地域や産業界との連携強化	③	地域や産業界との連携強化	【人材育成】 ・企業見学会、インターンシップなどの研修における生徒への事前・事後指導の強化 【情報発信】 ・出前授業を北中・湖東中などで実施 ・中学生や地域へ向けて鳥工TEECを実施、参加者、見学者も多く盛況 ・学校HPの更新による情報発信が昨年度より改善されたもののまだ途上 【地域との連携】 ・テクノボランティアは掃除などが好評 ・桜ヶ丘グリーンゾーンでは多くの生徒が参加（保護者・職員も含めて約200人） ・地域の行事などへの協力も例年通り実施 【PTA活動の推進】 ・各事業へのPTAの参加状況は概ね良好、呼び掛けにまちこみメールなどを利用したが、行事によっては効果薄		【人材育成】 ・企業が求める人材や地域産業の担い手の育成 ・生徒が個性を活かせる企業への就職 【情報発信】 ・「ものづくり」の体験を含めた地域や小学校・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ・各種事業を通じて地域と連携した貢献活動の実施 【PTA活動の推進】 ・本校の教育活動への理解の深化 ・本校の生徒指導方針に則った生徒の見守り		【人材育成】 ・企業見学会、インターンシップ、鳥工版デュアルシステムなど事前事後指導の充実 【情報発信】 ・各事業、学校行事などの情報をHPで発信する回数の増加 ・出前授業の内容の充実 【地域との連携】 ・生徒会などの協力を得ながら、地域に対する積極的なボランティア活動 【PTA活動の推進】 ・まちこみメールでの広報の支援の継続実施 ・PTA活動の深化、科別PTAの内容の充実 ・保護者への生徒指導方針の周知		【人材育成】 企業見学会、インターンシップなど各事業は概ね実施済、下半期も一部継続して実施 【情報発信】 ①HPの更新も昨年より引き続き、増加傾向 ②出前授業や中学校体験入学など概ね反応は良好、進路選択への影響が進路選択への影響は些少 ③学年通信などを発行して学校の見える化を図っている学年あり 【地域との連携】 ①桜ヶ丘グリーンゾーンの清掃活動の保護者、部活動生徒の参加は例年並み ②7月に実施したテクノボランティアを下半期にも計画済 【PTA活動の推進】 ①各事業ごとにまちこみメールを発信 ②各事業の参加者は若干の増減はあるものの概ね例年並み ③新規事業として、手話講演会、食育講演会を実施		B		【人材育成】 継続指導を行い、生徒への意識の徹底 【情報発信】 ①行事などの保護者への参加を促すHPやまちこみメールの継続活用テクノボランティアの継続実施や進路等への出席、タイムリーなHP等での情報発信 ②テクノボランティアの継続実施や各事業への出席、タイムリーな記事やHP等で情報発信 【地域との連携】 ①津ノ井地域懇談会、地域文化祭などへの積極的な参加と、地域とのより一層の交流 ②テクノボランティア等の継続実施による地域貢献活動の充実 【PTA活動の推進】 生徒の様子を勘案し、継続できる部分は継続しながらPTA活動の拡大及び内容充実	
				注）5S：整理・整頓・清掃・清潔・順 あさひ：挨拶・作法・人の話を聴く WYSH教育：性に関する教育 ハイパー・QUアンケート：よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート 評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（20%程度）											

注）5S：整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ：挨拶・作法・人の話を聴く WYSH教育：性に関する教育 ハイパー・QUアンケート：よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート デュアルシステム：学校の授業と並行して企業で学習するシステム 鳥工TEC：文化祭における各科のもののづくりの紹介 AL：アクティブラーニング

評価基準 A：十分達成【100%】 B：概ね達成【80%程度】 C：変化の兆し【60%程度】 D：まだ不十分【40%程度】 E：目標・方策の見直し【20%程度】